



笹中だより

学校教育目標
自立 自ら学び
共生 互いを支えあい
創造 未来を創る笹中生

横浜市立笹下中学校 Tel 045-841-1333 令和5年4月17日(月) 4月号

笹中HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/sasage/>

「風に吹かれて」

校長 池田ゆかり

ツツジの花をはじめ種々の草花が新緑に映え、美しく咲き誇る姿は、私たちに生きることの素晴らしさと力を与えてくれるようです。そして、修学旅行（3年）や自然教室（2年）、校外学習（1年）と楽しい学校行事を控えて、生徒たちが笑いさざめきあう、まぶしい姿と共に、私の頭の中には次のメロディが流れます。

♪「How many roads must a man walk down before you call him a man ?」♪

ボブディランの「風に吹かれて」という歌（3年の修学旅行説明会でつたない歌声を披露してしまいました）の一節です。「どれだけの道を歩けば彼は一人前の人としてみとめられるのだろうか？」そして、この問いかけの後には「白い鳩が安らげる時代が来るのはいつのことか？」さらに「戦争の象徴である砲弾がなくなる日はいつ来るのだろうか？」と続きます。誰もが平和な世界を望んでいますが、創り上げるのは難しい。でも、未来を創る若者には「より良く生きようとする人」「より良い社会の担い手となれる人」になって世界中の平和に貢献して欲しいと強く願っています。

様々な制限が緩和され、授業や学校行事もコロナ前に戻りつつあります。生徒たちは一見元気そうです。しかし、言動に弱さや脆さが見え隠れしているように感じるものがしばしばあります。例えば

- 自分自身に対する信頼が弱く、うわさやどう思われているのかを気にしすぎてしまう
- 自分の思っていること、自分の状況を説明したり意思表示したりできない。
- 人と関わることや、保護者、友人の働きかけにたいして心を閉ざしてしまう。

そんな生徒の姿を見るにつけ「失敗をたくさん乗り越える学習(経験)」をしてほしいと願います。一人前の「人」になるには、たくさんの失敗を繰り返し乗り越えながら自分の道を探し続け、自分自身を信頼できる強い精神力を身につけること、すなわち「学習」を繰り返すことが必要です。幸い、今の日本には学ぶ権利がしっかり確保されています。1985年に開催された第4回ユネスコ成人教育会議の「学習権宣言」を紹介します。

学習権とは

読み書きの権利であり

問い続け、深く考える権利であり

想像し、創造する権利であり



自分自身の世界を読み取り

歴史をつづる権利であり

あらゆる教育の手だてを得る権利であり

個人的・集団的力量を発達させる権利である

ボブディランは歌の中では「The answer is blowing in the wind。ただ風に吹かれるだけ・・・」とだけ答えています。この宣言に謳われた様々な学習権を思う存分に使うことこそ「How many roads must a man walk down before you call him a man?」の答えにつながっているのではないのでしょうか。

では、保護者の方や私たち教職員は、独り立ちしようとする思春期真っただ中の子どもたちにどんな風を送ればよいのでしょうか？

私たち教職員は生徒に「どうして欲しい?」「どんな助けが必要?」「〇〇か〇〇ならどちらを選ぶ??」と声をかけるようにしたいと考えています。自分で自分の世界を読み取り、状況がわかり、問い続け、深く考え、どんな助けをしてほしいのかを意思表示し、個人的・集団的力量を発達させてほしいからです。

「大丈夫!!」は自分が自分に向かって励ますときの言葉です。私たち大人は、子どもが自分の学習権を自分の意思で使えるように、温かい風を送りながら辛抱強く見守り、必要な手を必要な時に差し伸べたいものです。

ボブディラン

1941年 アメリカに生まれる。1962年のレコードデビュー以来半世紀以上にわたり多大なる影響を人々に与えてきた。現在でも、年間100公演ほどのライブ活動を中心にして活躍している。「風に吹かれて」は1963年リリースの楽曲である。グラミー賞やアカデミー賞をはじめ数々の賞を受賞し、2016年には歌手としては初めてノーベル文学賞を受賞している。